拝啓　立春も過ぎ、啓蟄も間近い昨日今日ですが、まだ吹く風に冬の寒さを感じる季節でございます。先生におかれましても、お体に変わりなく、ますます御健筆の御様子、心からお喜び申し上げます。

さて、本年の八月二三日(土)、二四日(日)、大阪にて第二十五回日本ＳＦ大会（愛称ＤＡＩＣＯＮ５）が開催されますことは、既に御通知を差し上げました。本大会は、名称が示しますように、大会二十五周年にあたり、長い歴史のちょうど節目を迎えることとなります。そこで、この四半世紀を、ＳＦ史、大会史など、様々な面から振り返る企画を設け、その意味を問い直していきたいと考えるしだいです。今回お手紙を差し上げましたのも、二十五周年企画につきまして、御配慮を賜りたくお願いいたすためでございます。

ＳＦ大会は、毎年欠かさずに開かれてまいりましたが、それだけに、ファン層の移り変わりを反映し、かつての大会とは、色々な意味で違った内容となってきております。そこで、大会とＳＦの歴史を結め、一体何が変わり何が変わらなかったかを、主に最初期から御活躍のベテランの方々に語っていただこうと、パネルディスカッション『高い城の男たち―黎明期からの眺め』を設定いたしました。この場合の「高い城」とは、ＳＦの大所高所からという意味もなくはないのですが、むしろ、別世界の産物と見られていたＳＦが、日本の中に受け入れられ、日常化していく過程で、どういう捕らえられかたをしてきたのか、結局日本のＳＦとは何であったのかを、黎明期に城に籠り守る立場だった当事者の目で、御議論いただければと付けたものでございます。第一回大会のころと現在の、御自身の変化について語って戴いても結構ですし、社会的な変遷について感じるところを御披露戴くのも、興味深いものと存じます。

つきましては御無理なお願いで相済みませんが、先生におかれましても、この記念企画にどうか御出席を戴けないでしょうか。大阪での大会は、第二回大会（ＮＵＬＬ主催）にはじまり、どの大会もユニークな試みで評価されてまいりました。ここにまた、大会史を彩る里程標的なディスカッションを持つことは、大変に意義深いものと思われます。ＳＦを愛する後に続く我々のために、夏の二日間のひとときをさいてくださいますよう、御高配のほどお願い申し上げます。

より具体的な中身につきましては、先生方の御意見を伺いながら、検討を進めていきたいと考えております。お引き受けいただければ幸いでございます。取り急ぎ、まずは御挨拶まで。

敬具

二月二三日

第二十五回日本ＳＦ大会実行委員長　山根啓史

先生

企画主旨

〔名称〕大会二十五周年記念リレーパネル

御参考のために、企画の要旨を簡単にまとめました。副題にある「リレー」とは、二十五年間の歴史の流れを想定したもので、当日のプログラムが時間的に連続している訳ではありません。出席予定者には、当方からお願いにあがっている方々のお名前を、勝手ながら使わせて戴きました。ただし、正式の御承諾をお受けするまでは、お名前をプログラム等に掲載するなどの、御迷惑は一切おかけ致しません。（文中、敬称は略させて戴きました）。

「高い城の男たち―黎明期からの眺め」（大ホール）

矢野徹、手塚治虫、眉村卓、石原藤夫、豊田有恒、各先生

主に、黎明期から今日に至る、ＳＦ界の変遷を語って戴きます。黎明期にはＳＦは珍しいもの、子供の読み物と見られていました。二十五年が経た今、ＳＦに対する見方は、本当に変わったのでしょうか。変わったとすると、どこが一番変わったか、どこが良くなり、逆にどこが悪くなったか、小説だけでなく、視覚メディアも含めて、御討議願いたいと思います。

「ゲイトウェイを求めて―成長期のＳＦ」（大ホール）

伊藤典夫、田中文雄、堀晃、川又千秋、横田順彌、山田正紀、夢枕獏、各先生

ＳＦの勃興は、ＳＦ大会やファンダム、多くの読者を同時に生み出しました。言うまでもありませんが、従来の日本にはなかった新しい社会集団でした。このディスカッションでは、既に先輩のＳＦ作家が存在していた中で、ファンになり、あるいは作家としてデビューした世代の方々（第二世代）から、当時目指したもの、現在に至るＳＦの変遷などを、語って戴きたいと思います。

「ショックウェーヴ・ライダーズ―円熟期のＳＦ」（中ホール）

高橋良平（司会）、難波弘之、岬兄悟、大原まり子、火浦功、水見稜、新井素子、大和真也、各先生

ここでは、もっとも新しいＳＦに対する姿勢とこだわりなどを、お聞かせ願いたく考えます。現代ＳＦの特徴は、その多様性にあると言われています。テーマ、文体など共通項や相異点から、八〇年代のＳＦが何を目指しているのか、

今現在に、あえて〈SF〉を意識する必要があるのかなどを、出席者御自身の立場で御議論戴きたいと思います。

「竜の卵の料理学―ハードSFの今日的意義」(大ホール)

小松左京、石原藤夫、堀晃、谷甲州、内藤淳一郎、大野万紀、各先生

『竜の卵』に代表される、現代ハードSFを、大きなテーマに取り上げました。ハードSFは、「SFのコア」と言われながらも、そのSFの内部―外部に対する位置関係が、必ずしも明確ではありませんでした。ここでは、過去に及ぼした影響と、ハイテク時代である現在の情況、また将来の展望について語り合って戴きます。作家、翻訳家、あるいはハードSF研の姿勢の違いなどについても、お話し戴ければと考えております。

以上、各企画に付きましては、まだまだ舌足らずなところもあり、中身について御不満も多くお感じのことと存じます。今後、先生方とお話し合いを重ね、詳細を煮詰めていく所存でございます。何卒、御容赦、御援助くださいますよう、お願い申し上げます。

4/19

「高い城の男たち―黎明期からの眺め」
首件 パネルディスカッションに、御賛同戴ける場合は、本書面にて御返事を賜りたく存じます。

御出席

御欠席

〔御芳名〕 平塚 [illegible]

〔御住所〕 東京都

〔お電話番号〕(差し支えがなければ、お書き添え下さい。)
(〇四二四)

〔企画内容に対する御意見〕(御出席の際の条件などが在りましたら、本欄にお書き下さい。)

パネルを(板用意して頂けませんか
全紙大ですと広い方が有難いのですが

尚、このお願いは、大会への御来場を制限するものでは決してございません。企画出席の可否と拘わりなく、御自由に参加戴ければ、幸いに存じます。

This document was created with Win2PDF available at http://www.daneprairie.com.
The unregistered version of Win2PDF is for evaluation or non-commercial use only.